

広島市高等女学校
広島市立舟入高等学校

同窓会会報

2021
vol.51

特集 市女100周年

— 有り難い —

あかしや



舟入・市女同窓生のお力添えがあってこそ、
社会福祉法人 二葉会 千田保育園は永遠です。

～千田保育園に熱いエールを～

千田保育園は、舟入高等学校の前身である広島市高等女学校（市女）の同窓生によって、1953年9月に設立されました。

市女の方々は、原爆により肉親や家を失った悲しみの淵から立ち上がり、被爆の傷跡が多く残る焦土の広島を歩き、保育園設立のための寄付金を集められたのです。

1967年に、社会福祉法人二葉会として認可されました。

設立以来60有余年、熱き市女魂は、舟入高校同窓生へと受け継がれ、「揺籃を動かす手が世界を動かす」の園是の下、子どもの持つ無限の可能性を信じて、愛いっぱいの保育を続けています。



あかしゃ 2021

舟入・市女同窓会 会長あいさつ

舟入・市女同窓会 会長 舟入29期 市本 秀則 2

ごあいさつ

校長ごあいさつ

広島市立舟入高等学校 校長 柳 智子 4

現役生の活躍 5

同期だより

ありがたい

舟入28期 山田 淳仁 6

「“えがお”が繋がる居場所」

舟入29期 松藤 研介 7

「親子のための助産院の活動～今、私にできること～」

舟入55期 伊藤(北谷) 真美 8

2018年西日本豪雨災害ボランティア活動体験～似島での舟入OBとの結びつき～

舟入26期 矢村 弘道 9

宝の友

舟入18期 安達 春汀 10

我々の自慢の先輩だ！

舟入27期 住田 恒三 12

特集 市女100周年

“市女”創立100周年

社会福祉法人二葉会 千田保育園 理事長 河野 保雄 15

略年表

..... 16

広島市立第一高等女学校職員生徒 原爆死没者慰霊 献花会 舟入・市女同窓会 副会長 舟入35期 永田 信治 25

感謝「有り難い」

市女23期 加藤 八千代 27

同窓会合併に思う

市女25期 稲生 小菊 28

広島市立第一高等女学校の歴史を継承していくために

舟入68期 青山 沙香 30

中国新聞記事 32

OB (舟入OB異業種交流会)

FOB (舟入OB交流会)に参加しませんか？

舟入53期 宮尾 俊行 34

同窓会活動

規約

..... 35

組織図

..... 36

2021年度(令和3年度)事業実施・関連参加・会議開催内容状況

同窓会事務局 37

2020年度会計報告

同窓会事務局 39

2021年度事業計画

同窓会事務局 40

2020年度同窓会費納入状況

同窓会事務局 41

広告

..... 45

校歌

..... 56

<表紙作者>

芦田 遥 広島市立舟入高等学校3年

表紙の原画作成を担当させていただきました。

舟入高校の生徒の将来をカラフルな花で、また、これから出会うであろう様々な人々とのつながりを白い糸で表現しました。私たちは、卒業後、進学や留学、就職などそれぞれの道へと歩んできます。舟入高校で学び、努力してきたことが、やがて美しい花を咲かせるようにと願いを込めました。

コロナ禍ではありましたが、舟入高校でのたくさんの思い出やこれからの未来を想像しながら、楽しく描くことができました。この度は表紙原画を描かせていただき、ありがとうございました。



舟入・市女同窓会 会長あいさつ



舟入・市女同窓会
会長 市本 秀則

今年は市女創立 100 周年であり、本来であれば盛大なお祝いの会として舟入市女同窓会総会・懇親会を開催したいところでしたが、本年度もコロナウイルス感染防止の一環として中止としたことで、お祝いも、楽しみであった恩師・旧友との再会も果たせなかったことは皆さま同様に残念でなりません。しかし、こうして「あかしや」が本年も発行できることは、担当幹事の頑張りに加え、皆さまからのご支援の賜物と感謝し、この場を借りて御礼申し上げます。また、本誌の中で、少しでも市女の歴史をお伝えできれば幸いです。

市女は大正 10 年（1921 年）4 月広島市高等女学校として、国泰寺に創立され、大正 15 年（1926 年）に、現在地である舟入に移転されています。当時のことは、皇紀 2601 年（昭和 16 年）の市女卒業アルバムを見せて頂く機会があり、素晴らしい校舎だけでなく広島の女性を代表する文武両道の学校であったことがわかります。この市女の教職員・先輩方の礎が、悲惨な被爆の中を復興し、更に強固たるものとなり、今日の舟入高校に繋がっているのです。感謝しかあり

ません。100 周年おめでとうございます。そしてありがとうございます。

総会ともう一つの同窓会の柱である慰霊につきましては、8 月 6 日に広島市高等女学校職員生徒原爆慰霊式典を献花会として開催させて頂きました。慰霊の思いはしっかりと守りつつ、コロナという変化に追隨した形です。また本年より「揺籃を動かす手が世界を動かす」を保育理念として設立された千田保育園の運営母体である社会福祉法人二葉会との共催とさせて頂いております。これにより、千田保育園・市女・舟入の三つの輪での鎮魂をより一層進めて参ります。今年度も多くの方にご参列頂きました。厚く御礼を申し上げます。

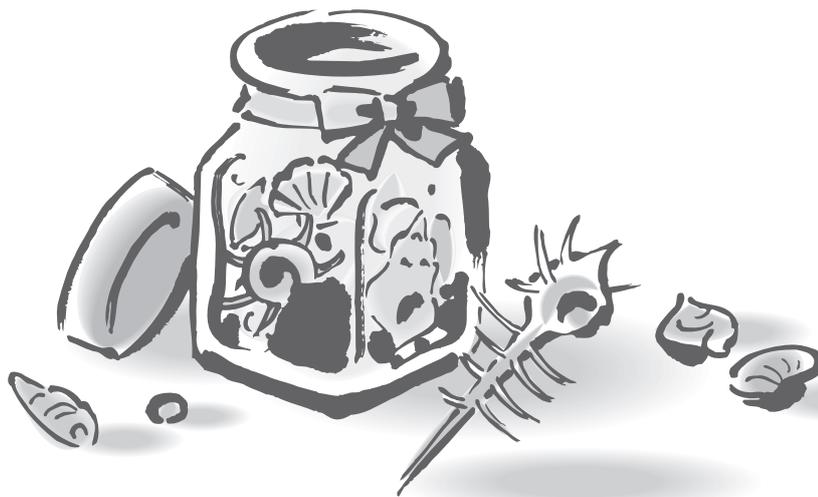
さて、今、社会はコンピュータの進化により、人々の生活をあらゆる面で良い方向に変化させようという“デジタルトランスフォーメーション（DX）：デジタルによる変革期”に突入しています。産業界でも、脱炭素化としてCO₂を出さない方向に大きく舵を切っている状況で、自動車業界では、電動化や自動運転と 100 年に 1 度の変革期を迎えています。私は、

そういった中で、大事なことは、先ほどの慰霊献花会のように守っていくことと変化に追随していくことをきっちりと分けて考えていくことだと思います。今年のアカシヤのテーマは“有り難い”ですが、この感謝の思いは守っていききたいことのひとつです。私自身、現在に至るまで先生方や諸先輩方から教わってきた「主体的で何事にもこだわりを持って取り組む姿勢」や舟入高校の校訓である「おのれに徹して人のために生きよう」という生き方は、感謝を持って、これからはしっかりと守っていききたいと考えています。

教育の現場においても、変革の時を迎えています。それは、「社会に開かれた教育課程」の実現に取り組みつづけることです。“より良い学校教育を通じてより良い社会を創る”という目標を学校と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子供たちに育むため、地域と学校の連携・協働の推進が重要になっています。そのた

めには、できれば高校在学中に、高い志を抱き、それに向けたロードマップが描けるよう、社会に向けて視野を広げていくことが大事と考えます。同窓会としても、これまで、年に一度、社会で活躍される同窓生の皆さまに、講演会という形で、志や取組みを紹介して頂きましたが、コロナで開催が困難となりました。今後は、今まで以上に同窓会の皆さまに、こういった、社会とのかかわりを在校生に紹介する活動へも積極的にご支援頂くことになろうかと存じます。どうかよろしくご厚意申し上げます。

最後に、諸先輩方のこれまでの舟入市女同窓会へのご尽力に感謝すると共に、今後、母校と共に益々発展していくよう努力していくことを誓いご挨拶とさせていただきます。



ごあいさつ



広島市立舟入高等学校
校長 柳 智子

記念すべき市女の創立100周年にあたり、心よりお祝いを申し上げます。また、会報「あかしや」第51号の発刊おめでとうございます。同窓会の皆様には平素より多大なるご支援ご協力を賜りありがとうございます。

新型コロナウイルスの流行は未だ衰えを見せず、広島市では昨年度来2度の緊急事態宣言が発令され、本校においても時差登校や部活動の制限、行事の延期等を余儀なくされました。今回の「あかしや」のテーマのとおり、これまで「当たり前」であったことの「有り難さ」に気付かされる日々が続いていますが、今年度は安心・安全を確保しつつ、縮小した形であってもできるだけ多くの行事を実施し、これまで同窓生の皆様が築いてこられた伝統を何とか途絶えさせないよう、生徒も教職員も工夫を重ねています。

一方、令和4年度の新学習指導要領の実施、令和5年度からの新高校入試制度のスタートに向けて、学校は一つの転換期を迎えてもいます。現在のコロナ禍を始めとする予測できない社会の変化に翻弄されない「芯」を持つ大人に育てるためには、「効率の良さ」や「目先の有益性」のみを重視する視点から物事を眺めることから離れ、様々なことに興味を持って丁寧に取り組む力を育成することにより、幅広い教養と豊かな人間性を身に付けることが大切であると考え、昨年度に引き続き総合的な探究の時間を中心とした授業改善に取り組んでいます。

舟入高校を巣立って10年後20年後に、現在の同窓生の皆様の仲間として各所で活躍できるための基礎をしっかりと養えるよう努めてまいります。

末筆となりましたが、同窓会の皆様の今後一層のご健勝とご活躍、そして同窓会の益々のご発展をお祈り申し上げ、ご挨拶に代えさせていただきます。

今年もコロナ禍の中、限られた時間を効果的に活用して、現役生たちは勉強に、部活動に、励んでいます。これからも現役生の活躍を応援しましょう！

◆体育系

陸上部

第74回広島県高等学校総合体育大会

男子110mH	6位	小柳 翔太郎
女子トラック総合	7位	
女子800m	2位	藤田 一花 6位 品川 風花
女子400m	7位	青山 里穂
女子3000m	7位	岩本 風音
女子4×400mR	5位	

第74回中国高校陸上競技選手権大会

女子800m	3位	藤田 一花
--------	----	-------

令和3年度 全国高等学校総合体育大会

女子800m出場	藤田 一花	予選5組4位 (2:13.48)
----------	-------	------------------

第75回中国五県陸上競技対抗選手権大会

女子800m	3位	藤田 一花
女子1500m	5位	岩本 風音
女子4×400mR	8位	

第71回広島県高等学校対抗陸上競技選手権大会

女子400m	2位	青山 里穂
1500m	4位	藤田 貫佑
女子2000m	8位	小林 祐紀乃

水泳部 (水球)

第74回広島県高等学校総合体育大会 4位

野球部

第93回選抜高校野球大会の21世紀候補枠に推薦される

◆文化系

箏曲部

第45回全国高等学校総合文化祭 (紀の国わかやま総文2021) 日本音楽部門 (和歌山市民会館) 出場

曲名 春の詩集

軽音楽部

第1回広島県高等学校軽音楽コンテスト

最優秀学校賞

第1位 Flyday's Evening

(中瀬古 匠、今田 晴基、平野 凌聖、面田 拓海、本村 優弥)

第2位 fantasia

(土岡 ゆらら、谷口 寛実、福垣内 亜美、岸野 萌葉、山本 真梨子)

第8回全国高等学校軽音楽コンテスト (さいたま市民会館おおみや) 出場

Flyday's Evening

(中瀬古 匠、今田 晴基、平野 凌聖、面田 拓海、本村 優弥)

楽曲名 That's How the Lespaul Strums

ありがたい

舟入28期 山田 淳仁
(酒商山田 代表取締役社長)

人生には3つの真実がある。「人は必ず死ぬ」「人生は1回しかない」「人はいつ死ぬかわからない」。技術者であり経営学者である田坂広志師の言葉である。この言葉を聴いたのは10年ほど前。改めて生の尊さを感じた瞬間である。人間である限り避けて通れない「死」。「死」に向き合った時に、初めて生への感謝が生まれ、誰もがかけがいのない人生を生きていることに気づく。

「死」を認識したのは小学校4年生の時。人間には死があり、大切な家族である両親や祖母も、この自分もいずれこの世から存在しなくなる。その真実は恐ろしく、悲しく、涙が溢れて止まらない。「じゅんじ、何で泣いとるん?」と母。「仲のよかった〇〇ちゃんが転校したんが悲しくて・・・」咄嗟に思いつきを答えた。

本当のことを告げたのは2年後の12歳の時。「人間には死があるからこそ、この世に生を受けたことに感謝し、1日1日を生き切ることが大切なんよ」。母の答えに妙に納得した。自分は、数百億分の1の確率でこの世に生まれた。生を受けたこと自体がありがたいと。

社会人になり、若い時の苦勞は買ってでもせよ!父の言葉を胸に仕事に取り組む。29歳の時に父が病に倒れ、30歳で家業の酒屋に戻った。3つの小さな夢を持ち、46歳で夢を叶え、その後も新たな目標を掲げ挑戦してきた。還暦を過ぎても、今なお新たなビジョンに向かって挑んでいる。振り返ればその都度、精一杯生きてきた自分があり、現在もそうである。天は乗り越えられない試練は与えないという。今の自分があるのは、天から沢山の試練を与えていただいたからであり、多くの方々と巡り合えたから。振り返れば、1つ1つの小さなコトの積み重ねであり、お一人お一人とのお縁のお蔭である。

誰もが未熟な人間から、1回限りの人生を精一杯生きることにより、日々成長させていただいている。人生の真実を知ったとき、他者への真の共感が生まれる。

人生の全てが、ありがたい。



「えがお」が繋がる居場所」

舟入29期 松藤 研介
(広島ガス 社長)

最近、周囲の人の笑顔を見たのはいつだったでしょうか。今では当たり前になったマスク生活では、マスクの向こうの笑顔を想像する…そんな日々が続いています。その分、“目は口ほどに物を言う”とはよく言ったもので、瞳から、ますます多彩な表情を感じられるようになった気がします。

笑顔でいられること。そのありふれた幸せなひと時を、さまざまな方と分ちあえる場所を創りたくて、昨夏、こども食堂「このまち思い えがお食堂」をオープンしました。心のこもった「食」を通じて、未来を担う子どもたちの健やかな心身を育てる、あたたかい「居場所」。子どもたちだけでなく、ここに集う大人も一緒になって互いに心を通わせ笑顔になれる地域のコミュニティになるように、との熱い想いを食堂名に込めています。コロナ禍でなかなか本来の形での展開が

ままならない現状ですが、一日も早くこども食堂に賑やかさが戻り、安心して満面の笑顔を交わし合い、共に食事を楽しみながら、人の縁がさらに繋がっていくことを願っています。

舟入の学び舎で出会った友との縁も、またかけがえのない縁です。一緒に青春を謳歌したかつてのやんちゃ高校生も、今や立派な“アラ還”となりましたが、楽しい時も困った時も、折に触れて思いを分かち合い、今でも支え合っていることがとても頼もしく、有り難い存在となっています。

過去から今そして未来へと、人が繋がり、心が繋がる。改めてそんな繋がりを意識する今日この頃、持続可能な社会を実現するために、未来の誰かの笑顔にも繋がるエシカルな暮らしにも心掛けていきたいものです。

【概要】 季節の食材を使ったおいしい料理と、みんなの「えがお」が集うこども食堂。

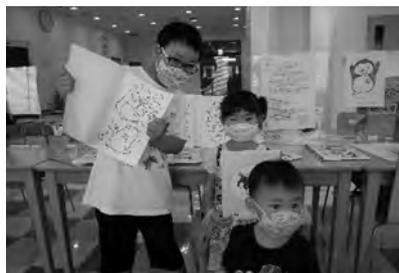
日時 毎月 第1又は2土曜 11:30~13:00 /14:00

会場 広島ガス ガストピアセンター 参加費要・事前予約要

【連絡先】 このまち思いえがお食堂実行委員会事務局 広島ガス株式会社環境・社会貢献部内

TEL 082-252-3154

MAIL action@hiroshima-gas.co.jp



「親子のための助産院の活動 ～今、私にできること～」

舟入55期 伊藤(北谷) 真美

国際コミュニケーションコースを卒業したのに、英語にさほど縁のない助産師として働いており、中学英語も怪しい今日この頃(先生方すみません)。総合病院に就職し、大学教員に転職し、このままバリキャリア(笑)を目指すつもりでいたのですが、人生何があるか分かりません。3人目の妊娠をきっかけに、フルタイム勤務はギブアップ。子育てを軸にしながら、今できることを模索し、2020年2月22日に「あさ助産院」を開業しました。

3人目の出産直後にコロナ禍に入りました。現在6歳・3歳・1歳の我が子。感染への不安もありますが、「6歳までに脳の9割が作られる」貴重な時期に、入ってくる刺激が制限されることが、子どもたちの将来にどんな影響を及ぼすのだろうか、ということも日々考えながら暮らしています。

今、私にできることは何だろうと考え、子育てイベントを企画しました。人と比べない、自分の子育ての軸をもつためのヒントになるお話会や、子どもたちが自分の夢に挑戦する場など、やりたいことを詰め込んだ

ら、想定より規模が大きくなってしまいました(とはいえ、一般的にみたら小規模ですが)。チラシ作りからSNSでの宣伝まで手探りで、イベント主催が初めての私にとっては大変な作業の連続です。さらに、直前に「まん防」が出たり、豪雨に見舞われたり、中止も頭をよぎりましたが、悩みながらもできることをやりたいという軸をもって進めてきたので、規模を縮小して何とか開催することに決めました。

当日はてんやわんやの私でしたが、出店メンバーや、夫もサポートしてくれて、たくさんの親子の笑顔に出会うことができました。同じ志をもって前向きに関わってくれたメンバーや、場所を提供してくださった方、そして家族には、本当に「有難い」気持ちでいっぱいです。まるで、覚悟を決めて向き合い、家族と周囲に支えられてやり遂げた、1人目の出産のようでした。

広島市佐伯区の出張専門助産所
「あさ助産院」
Instagram: asajosanin222
(ホームページ準備中)

妊娠中・産後の身体づくりサポート、母乳育児支援、骨盤ケア、育児相談等



2018年西日本豪雨災害ボランティア活動体験 ～ 似島での舟入OBとの結びつき～

舟入第26期 矢村 弘道

2018年7月6日の豪雨で発生した西日本豪雨災害の復旧ボランティアとして似島の復旧活動に参加しました。

土日ははさんだ月曜から、似島の現場で障害物の移動や泥土の除去作業を手伝いましたが、炎天下での作業となり長時間の作業は無理な状態でした。

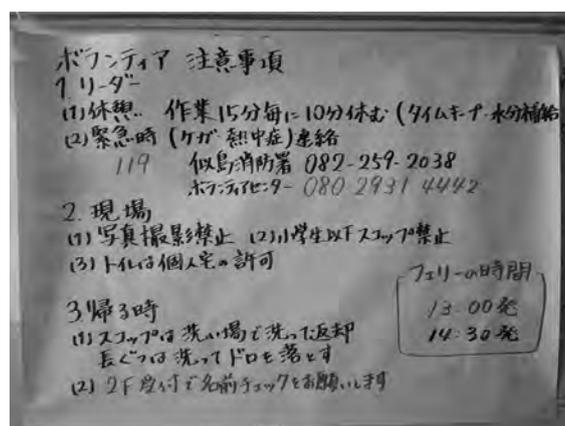
被災した翌週が三連休で、人的災害が発生した他の地域でのボランティア受入ができない状況下であったことから、大人数のボランティアが似島に来島し活動に入ることが想定されました。

この為、社会福祉協議会、地域おこし協力隊、似島町内会連合会、似島公民館、小生の大学院の研究テーマで知り合った似島の仲間を中心に災害ボランティアセンターを立ち上げ、ボランティア保険の加入手続き、各被災地区へのボランティアの派遣・誘導、飲料水・スコップ・一輪車他の作業に必要な物品の手配

をおこなうことになりました。

行政・町内会の調整は連合会会長の堀口 照幸さん（舟入18期）が当たられ、現場作業および他のボランティアへの作業指導等を志水 一則さん（舟入41期）・東 聡海さん（舟入65期）、飲料水用の保冷車の無料の貸し出しを中村 正則さん（舟入39期）、現場作業および被害申請相談対応を一久保 直也さん（舟入54期）、小生はボランティアへの飲料水の提供等の支援や毎日の終礼での現場進捗の確認と翌日の活動予定の打合せをおこなっていました。

災害ボランティア活動というと若者でないと無理という思い込みがありましたが、大規模災害となると体力がなくても対応できる仕事はたくさんあるということに気付かされました。最後には飲料水の運搬作業でギックリ腰になり、かかった鍼灸整骨院の鍼灸師が舟入OBだったというオチがつかしました。



宝の友

舟入18期 安達 春汀(正枝)

戦後第一次ベビーブーム時期に生まれた当時の私達は、団塊の世代ともいわれ、七割近くの人が高校に進学できるようになり、高度経済成長期と共に大学受験も就職試験も常に激しい競争率の高い時代を共に頑張っ

て成長してきたように思います。一学年18クラス、一クラス55名のマンモス中学校から総合選抜入試により、第一希望が叶って、舟入高校に入学できた。第四、五志望で仕方なく舟入にきたという友もいたけれど、私はのんきな性格を自覚していたので学業に関して厳しく追い込まれる方が頑張れると期待を含ませていた。

「広大合格者数をひとりでも多く」と定期試験の成

績は毎回はり出され、クラスも成績順に生まれ、私にとっては大変な環境でした。そんな中でも、成績を気にせず書道を選択し中学に引き続き、美術クラブで穏やかに文化活動を楽しんだ。

幼少期から絵画、書、茶、琴、ピアノ等、習いたい事を習わせてくれた両親にも感謝しつつ、現在迄も書や刻字の創作と指導に携わっているのは、高校迄のふんだんな趣味活動が礎になっていると思う。12才から書を習いはじめ、39才でプロとして初めての個展をすすめられ迷っていた頃「やってみたら」と背中を押してくれたのは舟入高校の同級生たち。展覧会の度にか



共学でこそ育まれた心置きない男女の友情も素敵なかたちと思います。高一で父を亡くし、悲しいときに先生や友達に励ましてもらった。舟入高校時代の友が特別なのもそんな思いがあったからなのだと思う。

「一文字違う方を存じています」「それは僕のおやじです」と一枚の名刺交換から始まったベルリン在住の外林校長のご息子との出会い。(京大卒業後、永年核の研究をされていた工学博士)

千田保育園々是の刻字製作を依頼されたのをはじめとし、たくさんの御縁を頂きました事を心より感謝しています。自然に繋がる市女、舟入高校の同窓生及び先生方は私の一生の宝です。



我々の自慢の先輩だ！

舟入27期 住田 恒三

7月1日（木）の早朝、我が家に届いた中国新聞の朝刊を見て、正直驚きました。我が舟入高校サッカー部OB会 堀口照幸名誉会長（舟入18期）が広島市中区の中央公園でのサッカースタジアム建設に寄付されたことで、広島市から感謝状を贈られたとの記事でした。その額、なんと100万円!!、「サッカーに恩返ししたかった」との言葉にも胸が熱くなりました。

その報に、OB会仲間たちも素早く、「立派です！有難いです！しっかり、舟入高校サッカー部OB会名誉会長とあり、同会員として嬉しくも、誇らしくもあります！広島でサッカーに関わる人達の長ーい夢と希望が、どんな人でも楽しめる、全国否世界に誇れるスタジアムとして完成するのが楽しみです。」「本当に素

晴らしいことですね。完成が待ち遠しいですね。」と応えている。

堀口照幸舟入高校サッカー部OB会名誉会長は、1948（昭和23）年広島市南区似島町で誕生、似島中学校からサッカーを始められました。中学校卒業後は、舟入高校に入学、本校サッカー部でFWとして活躍、3年時には主将を務め、総体予選では決勝で国泰寺高校に敗れ、惜しくも全国大会出場はなりません。高校卒業後は立教大学に進学、関東大学リーグで中心選手として活躍、チームの天皇杯決勝（昭和45年元旦）進出に貢献され、1得点を上げるも当時の強豪東洋工業に1対4で敗戦。大学卒業後は1971（昭和46）年東洋工業（現在のサンフェレッチェ広島）に

入団し4年間現役でプレー、1975（昭和50）年に引退されました。引退後は、1978年に堀口海産（広島かきの養殖・販売）を創業、「堀口のかき」は2008年に広島市「ザ・広島ブランド味わいの1品」に認定されています。2018年に代表取締役会長に就任、現在に至っています。

舟入高校サッカー部OB会の初代会長を長く務められ、現在は名誉会長のポジションに就かれておられます。舟入高校と舟入高校サッカー部とサッカーに対す

る情熱と愛情の強さには並ぶ者なし、の我々の自慢の先輩です。自らも車椅子生活を送っておられる堀口名誉会長は、「障がい者が安心して、気楽に行けるスタジアムを」とも願っておられます。

広島市中区の中央公園広場でのサッカースタジアム建設計画で、市は30日、建設に充てる100万円を寄付した堀口海産（南区）会長で舟入高（中区）サッカー部OB会名誉会長の堀口照幸さん（73）に南区似島町に感謝状を贈った。

市役所で贈呈式があり、松井一実市長が2024年開業などのスケジュールを説明。「頂いた寄付を有効に

活用し、スピード感を持って進めたい」と述べた。中高と大学、社会人を通じてサッカーを続けた堀口さんは車椅子で訪れた。「サッカーに恩返しをしたかった。障害者が気軽に行けるスタジアムを建ててほしい」と求めた。

個人の寄付は5月末時点で2億9千万円が集まっている。市は24年3月まで募つ

（新山創）

サカスタ建設に高額寄付

舟入高OB堀口さんに市感謝状



松井市長から感謝状を受け取る堀口さん

2021年7月1日 中国新聞

記憶を受け継ぐ



9歳ごろの今西さん

サンフレッチェ広島の新劇に総監督を務めた今西和男さん80は、4歳で被爆しました。熱線を浴びた左足は、今もケロイドで引きつっています。逆境をばねに、サッカー選手として活躍し、後身の育成や、地域スポーツの盛り上げにも力を注いできました。

平塚町（現広島市中区東平塚町）で生まれ育ち、4人きょうだいの末っ子でした。各地で米軍による空襲が激しくなっていた1945年4月、一家は、広島駅近くの二葉の里（現東区）へ引っ越します。空襲に備えて防火帯の空き地を進るため、「建物疎開」の対象となったからです。

あの日の朝は、自宅の隣の窓際に座り、足をぶらぶらさせながら、近所の女の子と口げんかをしていました。突然、ピカッと光り、ずしーんと家が崩れて屋根の下敷きになりました。

母キヌ子さん（90年に83歳で死去）に引つ張り出されて背負われ、牛田山の防空壕を目指しました。逃げ惑う人を見て「おかあちゃん、あの人、血が出る」と叫ぶと「あんたも血が出るでしょ。だまっつて背中を叩いて泣き叫んだ」。

数日後、一番上の姉久恵さん（当時16歳）が動員先から大八車で運ばれてきました。

「いまし、今西和男さん80」広島市中区

家が崩れ足にケロイド

「におりんさい」と諭され、わっとなだしました。川には死体がぶかぶか浮かび、水を飲むと吐く人であふれていました。「4、5歳の記憶はほとんどないのに、あの日の光景は忘れられない」。一晩過ごした防空壕は、負傷者でいっぱいでした。

翌日、2人は矢野（現東区）の親戚宅へ避難します。頭や腕、足に大やけどを負った今西さんの傷痕をひやかされました。「今考

えれば、いじめ。悔しくてつらい思いをしたからこそ、他人に配慮できるようになった」と振り返ります。

時折、竹屋小にシーブ型の車が来て、比治山の原爆被害調査委員会ABC、

現放射線影響研究所へ連れて行かれました。裸で写真を撮影され、「子どもながらすくく腹が立つた。先生から「原爆が人体に及ぼす影響を調べている」と聞きました。

国泰寺中を経て、舟入高へ進学。ケロイドの引きつれがありながらも、俊足ぶ



受けたひやかかしサッカーではね返す



サッカースタジアム建設予定地に立つ今西さん。スポーツを通じ、人と人との交流が広がることを願う。（撮影・藤井康正）

りを買われて柔道部から2年生でサッカー部に移ったことが大きな転機となりました。東京教育大（現筑波大）に進み、63年に入社した東洋工業（現マツダ）でもサッカーを続けました。後に日本サッカー協会会長を務めた長沼健さん（2008年に77歳で死去）に

見いだされ、66年には日本代表に選ばれます。広島高等師範学校付属中（現広島大付属中・高）出身の長沼さんも被爆者。「廃虚になつてしまった広島街が、もう一回元気になるまで、いじり打ち明けたらいい」。今西さんも思いは一緒でした。69年に現役を引退後

は、指導者として地元サッカー界を支え、93年、Jリーグ開幕と同時にサンフレッチェ広島の新監督に。現在、東京五輪の日本代表監督である森保一さん（69）をはじめ数々の有力選手を育てました。

本業の傍ら、85年から09年にかけて、母校の「広島舟入・市女同窓会」会長も延べ10年務めています。前身の広島市立第一高等女学校で676人が原爆の犠牲になったことを知り「何の罪もない13歳前後の少女たちが亡くなった。被害者は自分だけではない。後世に伝えよう」との思いを強くしました。

03年の「サッカースタジアム推進プロジェクト」発足にも携わっていた今西さん。現在、市が中央公園広場（中区）で建設計画を進めています。「サンフレもカーブ同様市民に支えられてきた。広島復興を多くの人に感じる場になってほしい」と願っています。（桑島美帆）

前向きな考え方 見習う 私たち10代の感想 異文化に触れ戦争防々

左腕や足にケロイドが残った今西さんは、子どものころ、からかわれたそうです。しかし「悲惨な思いをしたからこそ、仲良くすることが身に付いた」と考えたとき、驚きました。被爆した上にいじめられるなんて私だったら悔しさでいっぱいになります。つらいことがあっても、今西さんのように前向きに捉え、乗り越えたいです。（中1山下裕子）

今西さんは、戦争を起こさないためには「いろいろな国の人と交流することが大切」と強調しました。現役時代、外国人選手と食事をし、異文化を知ることによって打ち解けたそうです。新型コロナウイルスのため交流の機会は減っていますが、日常に戻れば積極的に異文化に触れ、国籍や意見の違いを理解できるよう視野を広げたいと思います。（高2桂一葉）

“市女”創立100周年

社会福祉法人二葉会 千田保育園
理事長 河野 保雄

舟入高校の前身である“市女”は大正10年に女学校として設立されました。初代校長である今堀友市先生は、その頃の女学校教育が「良妻賢母」を育てるといふ美名のもとに、内容が乏しい教育から、真の人間教育を目指した教育へと再構築されたのです。教育方針は自由の教育観によっての人間教育、音楽を通じての情操教育、健康管理と体力作りの各スポーツ推進でした。正式名称は広島高等女学校で、昭和17年4月には広島市立高等女学校へ、また昭和18年11月には広島市立第一高等女学校に名称は変わりました。昭和12年から市女最後の年まで、2代目校長として就任された宮川造六先生は、戦争に翻弄された大変な学校経営を強いられました。昭和13年にはヘレン・ケラー女史が3か月半に上る初めての日本訪問の際に来校されたと記されており、又その年にはバレー部の全国選手権優勝という記録も残っています。終戦後昭和23年には学制改革により広島市二葉高等学校となり、市女としての28年間の幕を閉じました。昭和24年には学校再編により広島県広島舟入高等学校に改められ、後に広島市立となりました。戦争による原爆投下により、職員生徒676名の尊い命が失われ、悲惨で悲しい歴史を持った学校でもあります。

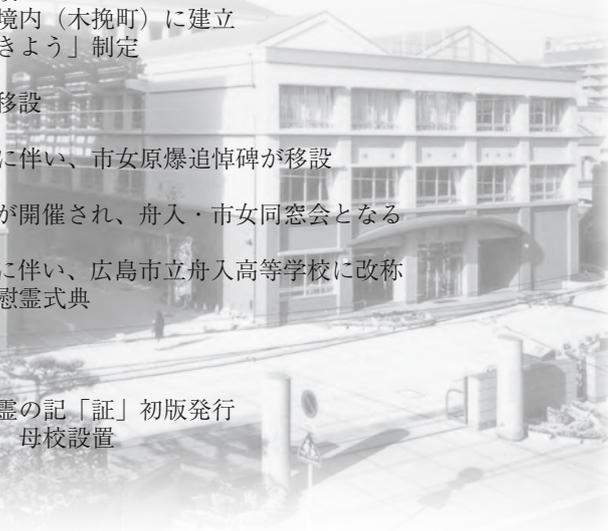
ようやく占領下の軍政から解放されて日本も新生し存続するという感をもった昭和26年ごろから、同窓会会員たちの間で、自分たちが出来る何らかの事業をやりたいという話が出て来るようになりました。今堀

元校長に相談された際、明治以来の教育の発展の中で乳幼児教育だけが取り残されてきたという持論の持ち主であった元校長の後押しもあり一気に保育園建設へと突き進んでいったのです。乳幼児を預かり、女性達の社会進出を側面からお手伝いするという社会貢献が出来ることも女性たちを後押ししました。敗戦による社会の混乱の中で資金、設立場所、優秀な園長と保母の確保、設立認可の申請など困難な課題は山積みでしたが、一口二百円二口以上という募金によって五十万円目標を立て資金調達が始まったのでした。母校が無くなったという、持って行きようのない想いを、逆に“市女魂”の強大なエネルギーに変えて保育園設立へ奔走されました。こうして昭和28年9月千田保育園は開園し、昭和31年には財団法人を昭和42年4月に社会福祉法人の認可を受けています。社会福祉法人二葉会千田保育園は全国的にも例がない女学校の同窓生達が経営、運営する保育園となったのです。

千田保育園には市女の校章がそのまま園章として引き継がれ、正面玄関前の建物中央から園児を見守っています。又「揺籃を動かす手が世界を動かす」という市女の校訓はそのまま保育園の“園是”として使われています。舟入高校同窓生の我々は、市女同窓生の想いを引き継ぎ、1期から市女最後の28期までの方々の足跡とその想いを忘れることなく、設立の意思を引き継いで未来に繋げていく覚悟です。

市女と舟入の歴史と同窓会

1921年	大正10年	2月1日 3月29日	広島市市議会 本校設置の議を可決 入学試験を実施 224名（第一学年108名 第二学年58名 第三学年58名）に入学許可・4学級に編成
		4月1日 4月17日	広島市国泰寺町39番地 広島市女子高等小学校校舎敷地に広島市高等女学校創立 授業開始
1923年	大正12年	5月5日 3月27日	今堀友市初代校長 就任 第1回卒業式（卒業生54名）
		8月	第1回同窓会総会開催
1926年	大正15年	3月17日 10月27日	本校舎落成（広島市船入町沖）移転 本校舎新築落成式
1931年	昭和6年	9月16日	生活実習寮完成
1937年	昭和12年	7月20日 9月11日	今堀友市校長 退任 宮川造六第二代校長就任
1940年	昭和15年	12月2日	本校創立20周年記念展覧会開催（紀元2600年）
1941年	昭和16年	3月20日 8月21日 12月8日	広島市高等女学校職員生徒 勤労奉隊編成 本校防空壕構築完了 太平洋戦争勃発
1942年	昭和17年	5月28日	広島市高等女学校を広島市立高等女学校と校名改正
1943年	昭和18年	11月1日	広島市立第一高等女学校に校名改正
1944年	昭和19年	4月27日 6月10日 8月1日 8月22日	学徒勤労動員実施要領が発せられる 第4学年勤労動員壮行式 第3学年通年動員入所式 学徒勤労令発布
1945年	昭和20年	5月21日 8月6日 8月14日 8月15日 9月19日 10月30日	戦時教育令施行 広島に原子爆弾投下 生徒666名教職員10名計676名死亡 日本政府 ポツダム宣言受諾 本校にて慰霊の読経 分骨式 第二次世界大戦 終戦の日 遺品を整理し、門脇に記念柱建立 授業再開（生徒162名登校）
1946年	昭和21年	4月15日 8月6日 11月3日	始業式 材木町にて追悼式開催 木碑建立 日本国憲法公布
1947年	昭和22年	4月	新制中学校（義務制）発足 旧制中学校募集停止（新二年生は市女最後の生徒） 新制高等学校発足 市女（広島市立第一高等女学校）は広島市二葉高等学校となる 白梅高等学校（第二市女の後進）を吸収
1948年	昭和23年	8月6日	慰霊碑（占領下平和塔 設計：彫刻家河内山賢祐氏 制作：石工三好裕之氏）元市女校庭に建立
1949年	昭和24年	3月15日	卒業式 二葉高校第一回卒業生 94名 広島市立第一高等女学校卒業生 29名 二葉高校併設中学卒業生 327名 広島市立第二高等女学校卒業生 13名
		4月	新制高校再編成（総合制、共学制、学区制）
1950年	昭和25年	5月1日	広島県広島舟入高等学校発足
1951年	昭和26年	8月6日	木碑供養塔を持明院（木挽町）に移設
1953年	昭和28年	8月6日 1月1日	市女原爆追悼碑を、遺族会が持明院境内（木挽町）に建立 校訓「おのれに徹して人のために生きよう」制定
		9月22日	千田保育園開設
1957年	昭和32年	6月20日 8月6日	慰霊碑を現在地（平和大橋西詰）に移設 追悼誌「流燈」初版発行
1967年	昭和42年		持明院の木挽町から戸坂町への移転に伴い、市女原爆追悼碑が移設
1977年	昭和52年	2月1日 8月21日	追悼誌「流燈」続編発行 広島舟入・広島市女合同同窓会総会が開催され、舟入・市女同窓会となる
1978年	昭和53年	8月13日	第一回舟入・市女同窓会総会開催
1980年	昭和55年	4月	広島市が政令指定都市になったことに伴い、広島市立舟入高等学校に改称
1981年	昭和56年	8月6日	舟入・市女同窓会主催で、初めての慰霊式典
1987年	昭和62年	8月6日	追悼誌「流燈」第三編発行
1994年	平成6年	8月1日	追悼誌「流燈」初版再発行
1998年	平成10年	4月1日	舟入高校新校舎完成
2005年	平成17年	8月6日	被爆60周年慰霊式典 被爆60周年慰霊の記「証」初版発行
2009年	平成21年	5月9日	広島市高等女学校原爆慰霊碑旧銘板 母校設置
2013年	平成25年		慰霊碑周辺のバリアフリー工事完了
2015年	平成27年	8月6日	被爆70周年慰霊の記「証」発行
2020年	令和2年		市女創立100周年



市女設立1921年(大正10年)～1941年(昭和16年)



市女創立時の校舎



今堀友市 初代校長

皇紀とは

「皇紀」は、日本の初代天皇である神武天皇が即位したとされる年を元年(紀元)とする日本の紀年法。「神武天皇即位紀元」ともいいます。神武天皇の即位を日本の歴史の紀元とする見方は、古代・中世・近世を通じて一貫してつづいた伝統的なものであったが、これを近代になって実用的にしたものが皇紀です。



久邇朝融王殿下御台臨



舟入へ移転時の校舎



黎明学校(大正15年 仙酔島)



運動会のようす



皇紀2601年(昭和16年)市女卒業アルバムより



正門をくぐっての登校風景(昭和11年)

校舎の変遷



広島市高等女学校創立
大正10年(1921年)



国泰寺から舟入へ移転
大正15年(1926年)



広島舟入高等学校となって
昭和35年(1960年)

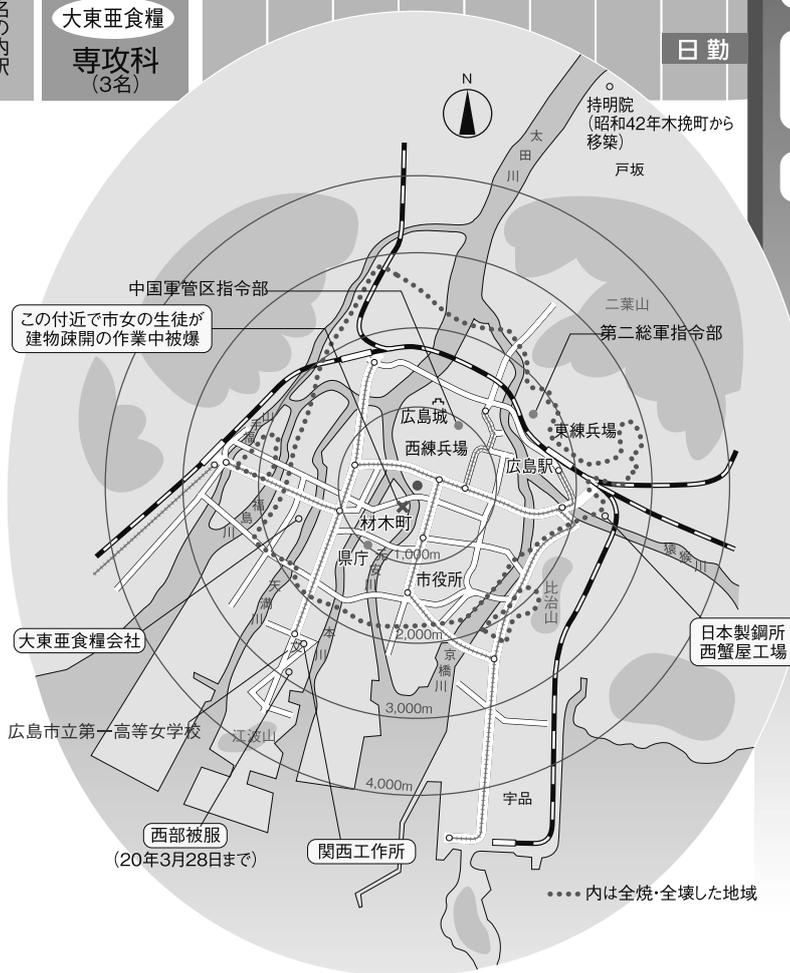


現在の舟入高校
平成10年(1998年)



皇紀2601年(昭和16年)市女卒業アルバムより

原爆投下



1945年

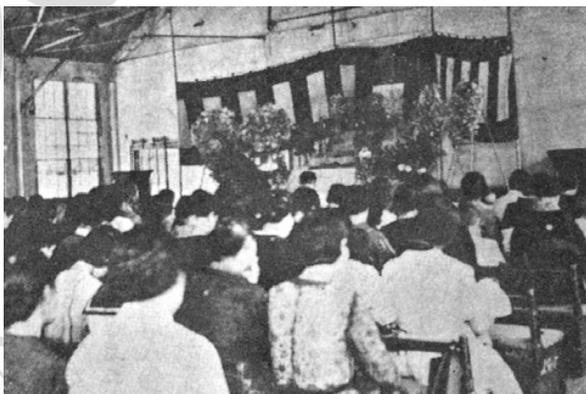
〈昭和20年〉

8月14日 学校で慰霊

分骨始まる。
広島市立第一高等女学校職員室で納経、分骨式を行う。遺族約100名参加。

10月30日 学校で慰霊式

広島市立第一高等女学校の破損した講堂で、殉職諸先生及び生徒の慰霊式を学校主催で行う。授業再開。



市女講堂で慰霊の集い 1945年10月30日



被爆当時の校長 宮川造六先生



10月30日の慰霊式で読まれた
宮川校長の「司式の辞」(本文は106-107ページに掲載)

1946年

〈昭和21年〉

8月6日 木碑建立 慰霊祭 学校主催

原爆当日、建物疎開作業で朝礼を行った材木町西福院の東南隅の小高い土盛りの上に、宮川校長先生の執筆による「殉職諸先生並びに生徒供養塔」と記した墓標を建て、慰霊祭を広島市立第一高等女学校主催で行う。

見渡す限り鉄道草に掩(おお)われたここ広島市の中心部は、廃墟となり、繁栄しのぶ、よしなき様子である。アメリカの飛行機は、この日敬申の意を表してか幾度も低空飛行を行った。この飛行機を見上げる遺族の頬には痛恨限りなき苦悩の色が視える。
(想イ出ズルモ悲惨ノ朝殉職職員生徒現地ニテシメヤカル法要を行ウー学校沿革史より)



1946年(昭和21年)8月6日—1950年(昭和25年)8月6日まで、材木町に建立された供養塔の前で慰霊祭が学校主催で行われた。
供えられる花と香が絶えなかった。

1947年

〈昭和22年〉

8月6日 慰霊祭 学校主催

被爆2年目を迎え、前年と同様に学校主催の慰霊祭が行われた。



被爆現場での悲しみの集い 1947年8月6日

1947年(昭和22年)4月、新制中学校発足。

1948年(昭和23年)5月22日、新制二葉高等学校発足。

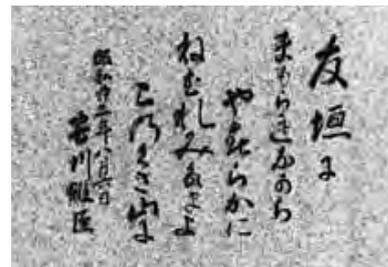
1949年(昭和24年)5月1日、舟入高等学校発足。

1948年

〈昭和23年〉

8月6日 平和塔の除幕式 二葉高等学校内に建立

原爆後、西福院の土塚の下敷となった生徒の遺品を、母校奉安庫の跡に埋め葬った。この跡に、死没した生徒への弔慰金の一部寄付と父兄会費の支出で平和塔が建立された。原型は、山口県出身の河内山賢祐氏に依頼、河内山氏は京都に湯川秀樹博士を訪ねて原子力の意味を糺(ただ)し、「三人の純情な乙女が、一人はモンペをはき、手に原子力を表示した【 $E=MC^2$ 】という化学式を持ち、スカートをはいた二人のうち、一人は鳩を抱き、一人は花輪を持ち、友に捧げている」構図をデザインした。当時、わが国は米軍占領下にあり、慰霊碑の建立は許されない諸情勢であったが、市女原爆関係者は率先してこれを建立し、平和塔と呼んでいた。



慰霊碑の裏に刻まれた宮川造六先生の歌
原文は千田保育園所蔵

8月6日、平和塔の除幕式は盛大に行われた。居並ぶ遺族は三人の純情な乙女像を見て、思いは新たに追憶の涙にむせんだ。



初期舟入高校の全景(○で囲んであるのが、奉安庫のあった場所)

1957年

〈昭和32年〉

5月26日 千田保育園で市女同窓会主催の慰霊祭
第5回市女同窓会で、動員生徒だけでなく、被爆犠牲
となった同窓生全員の慰霊祭を行った。



6月20日 平和塔(慰霊碑)の移設 現在地

昭和24年学制改革により広島県広島舟入高等学校と
なり、元市女の諸先生も転勤その他で縁故も薄くなっ
てきたため、遺族会は、十三回忌を迎える年に、当時舟
入高校内にあった平和塔を、原爆犠牲者の魂の留まる
元安川畔の平和大橋西詰に移設し、遺族会の手で供養
することにした。のちのちここを行き交う世界の人々に
対しても、この静かなる怒りと祈りを込めた石碑は、常
に新たな感懐を呼び覚ましてゆくことであろう。



1967年

〈昭和42年〉

追悼碑の移設 戸坂千足

木挽町の持明院は平和都市区画整理により、境内の
5割が減少となり、周囲の環境が変化した。これを機会
に寺は木挽町から戸坂町に移転、「市女原爆追悼碑」も
移設された。以来、持明院住職の奉仕をいただき、散華
した生徒の霊も永遠に鎮まるところを得た。



戸坂の持明院に移設された市女原爆追悼碑



現在の持明院 追悼碑は静かに佇んでいる(広島市東区戸坂千足)

1969年(昭和44年)4月

作業中被爆の犠牲となった市女1・2年生に対し、
勲八等瑞宝章が授与される。

1975年

8月6日 被爆30周年慰霊祭

この年、初めて市女同窓会主催の慰霊祭が持明院住職の読経で行われた。舟入高校吹奏楽部の有志4名が初めて参加、市女校歌を演奏した。また、慰霊碑周辺にサザンカを植樹した。



左より 持明院住職、新川 遺族会副会長、真田 遺族会会長、小島 市女同窓会会長、後列に市女の元教師 斎藤先生、山本先生、宮脇先生の姿も…。



持明院住職の読経による式典



舟入高校音楽科の河本ワキ子先生(市女14期)と吹奏楽部有志



市女の方たちの合唱



慰霊碑を囲むように植えられたサザンカ

広島市立第一高等女学校職員生徒 原爆死没者慰霊 献花会

舟入・市女同窓会 副会長 舟入35期 永田 信治

あの日から76年目の夏を迎えました。東京では延期されたTOKYO2020五輪が盛り上がりを見せています。昨年はじまったコロナ禍は収束するどころか変異したデルタ株の感染が拡大していることもあり、参列者の健康を考え今年の慰霊式典も昨年と同様「献花会」形式で行いました。

最高気温が36度にも達する厳しい日差しの中ですが、ご遺族、市女同窓生、舟入高校同窓生、教職員関係者ら250名の方が献花されました。嬉しかったことは、舟入高校生徒が多く訪れてくれたことです。写真部は部員それぞれのカメラで記録し訪れた高校生に取材をしていました。昨年にはなかった光景であり、

学校での声掛けや平和教育の賜物だと思います。

慰霊は被爆直後は学校で行い、その後遺族会、市女同窓会、昭和56年からは舟入・市女同窓会の主催で行ってききましたが、今年から舟入・市女同窓会と社会福祉法人二葉会の共催となりました。二葉会とは、戦後の学制改革により母校を失った広島市第一高等女学校（市女）卒業生たちが、生きがいと心のふるさととして創立した千田保育園の運営を行っている法人です。卒業生の高齢化が進み活動が難しくなった市女同窓会の流れを継ぐ団体と言えます。現在の理事の多くを舟入同窓生が務めています。



特集 市女100周年 慰霊部会

さて、ご覧になった方も多いでしょうが、7月19日の中国新聞の特集「ヒロシマの空白 被爆76年」で、「市女の悲劇招いた軌跡 舟入高大量の学徒動員記録」として掲載されたこともあり、記者3名が取材していました。

慰霊祭の当番は35期でしたが、来年担当の36期、再来年の37期も手伝いや見学に来てくれて運営を引き継ぐ気持ちと体制は整っているように思います。

私達35期は昨年と今年の2年間を担当させてもらったわけですが、たまたまコロナ禍と重なりこれまでのような盛大な慰霊式典はできませんでしたが、それ故にこの行事の大切な目的 慰霊と継承を考えるよい機会となりました。来年はどのような慰霊の形になるかわかりませんが、この2年間が異例だった、となることを願っています。



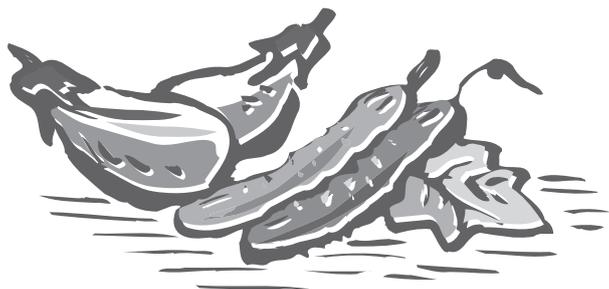
感謝「有り難い」

市女23期 加藤 八千代

大正10年(1921年)創立した。広島市高等女学校は、今年100年になりました。戦争と平和を日々の生活で過した者も少なくなりました。昨年より世界中にコロナウイルスの感染により経済的にも生活にも影響が大きく平素は何もなく一日を過していた日が不自由をして初めて有難い事を感じています。平穏な大正時代から、昭和に入り戦時下には、食糧も不足。学校生活にも影響して昭和19年には学徒勤労動員令により、三年生以上は授業は停止され軍需工場へ動員となりました。学校に残っていた、一年生・二年生は、陸上部が活躍していた運動場を耕し畑に作物を作っていたそうです。8月6日現在の平和公園の場所で道路拡張のため建物疎開の作業中被曝により541名犠牲となりました。先生10名三年生以上125名、在学中生徒合計666名若い命が一瞬に散華しました。現在平和大橋西詰の慰霊碑で毎年舟入卒の同窓会の方々に慰霊式典が運営され、式典前日には舟入高校の生徒さん

の清掃、当日は吹奏楽部により演奏、折鶴の献納、学校の平和教育に感謝しています。戦後学制改革により卒業生のない同窓会として、総会は開催されていましたが、心の拠り所と社会に貢献出来る事業にと昭和28年に千田保育園を創立、現在も園児達の元気な声が園内に響いています。長い間待ち望んだ舟入同窓会と昭和52年、舟入6期の執行部の方と同窓生皆様の御理解で、同窓会の合併が決議され、舟入・市女合同同窓会懇親会が催されました。両校の校歌の演奏に涙した日を思い出します。若く優秀な同窓生に温く迎えられ無上の喜びです。現在千田保育園も舟入卒の理事長様の運営で引継いで頂いております。

私達学年は、全員揃っての卒業式はなく、修学旅行、卒業アルバムの無い学年ですが仲良く交流をしています。コロナに負けないで生徒さんがんばって下さい夜から朝は来ます。



同窓会合併に想う

市女25期 稲生 小菊

私は昭和18年(1943)広島市高等女学校に入学、通学は戦時下で医師の証明のある学生のみ電車バスが許されました。その他は徒歩通学、私は段原から舟入まで地区毎に集合、上級生の引率、二列縦隊で片道50分徒歩。2年生の1学期迄、授業は英語、敵国音楽廃止。

7月から学徒動令により日本製鋼所蟹屋分工場で4交替(朝勤、昼勤、夜勤、暁勤)機関砲の弾丸作りをしました。この時2級上級生の加藤八千代さんが下級生の面倒を見て下さり、夜勤、暁勤の睡眠時に市女の楽しい学生生活、地御前海岸で1週間の水泳教室、夏期休日林間保健のため大野町のチチヤスで1週間保養、秋の運動会、呉海軍軍隊の演奏など話してもらい羨ましく、勉強したくてもすることは出来ず淋しい思いをしました。

昭和20年8月終戦。昭和21年6・3・3の制度改正により昭和22年4月より新制中学校が義務制度となりました。市女は4年制度が5年制度となり、新制高等学校発足、広島市二葉高等学校となりました。私達25期は制度改制により卒業が22年3月市女4年生卒業(119名)、23年3月二葉高等学校5年生卒業(67名)、24年3月二葉高等学校3年生卒業(92名)3回の複雑な卒業です。

これで市女の歴史は終り、拠り所のない淋しい思いをしました。

昭和24年4月から舟入高等学校発足、昭和51年9月(1976)舟入・市女同窓会が合併議決、同年8月13日第1回合同総会に800名を超える出席者、両校の校歌に感動されたことを加藤さんから聞きました。※
※(当時舟入12期市女23期)

以後令和1年(2019)8月10日第42回舟入・市女同窓会総会が行なわれ毎回出席感謝しています。

市女は1・2年生が昭和20年8月6日市内中心地材木町(現平和公園)で火災による延焼を防ぐため道路拡張の建物疎開作業に参加、生徒教師660名が被爆死亡しました。



昭和23年被爆慰霊碑除幕式については、私は二葉高等学校3年でしたから詳しく知りませんでした。昭和32年6月20日13回忌に平和大橋西詰に移設され毎年8月6日、現在は舟入慰霊部会が慰霊祭実施、式辞を舟入現職校長、吹奏楽部による校歌吹奏が行われます。

霊魂は安らかに眠っていることでしょう。

有り難いことです。

市女の拠り所として市女同窓会が初代校長今堀友市先生の校訓「揺籃を動かす手が世界を動かす」を生かすとの助言を頂いて、市女同窓会の先輩たちが立ち

上り募金集め1口200円が始まり昭和26年8月(1951)児童福祉法の規定に基づき広島県より認可、昭和29年1月1日広島市より市女同窓会へ経営委託、昭和42年4月1日(1967)千田保育は財団法人から社会福祉法人二葉会として認可されました。

保育園が出来て60余年、先輩も亡くなられ、市女から舟入同窓会が引き継ぎ経営されています。

素晴らしいことです。

以上市女の歴史を舟入同窓会が引き継ぎ行なって下さり感謝致します。91才の眩き。



広島市立第一高等女学校の歴史を 継承していくために



舟入68期 青山 沙香

(はじめに)

2017年に卒業をしてからも、舟入高校とつながりを持つことができ嬉しく思います。大学の卒業論文では、資料のご提供をいただいたことで、市女の学徒動員・原爆経験について研究することができました。ご協力いただき、ありがとうございました。

今回は、その卒業論文『被爆地の女子学徒動員－動員と原爆経験をした広島を対象に－』についてご紹介します。

(研究をする上での問題意識)

卒業論文における問題意識は、大学2年生の時に聞いた被爆者の方の話をきっかけに生まれました。その話によると、ある修学旅行中の学生が、平和記念公園は原爆投下以前も公園であったと認識しており、「多くの人が死んだ場所ではなくて良かった」と言っていたそうです。このお話を下さった被爆者の方は、こうした認識をしている若者が年々増えてきていると話していました。私は、この誤解を正し、原爆投下時の広島平和記念公園には人々が暮らす町があっ

たことを伝えていかなければならないと、強く感じました。

(卒業論文の課題)

平和公園には人々の住む町があったことが忘れてきているという問題意識から、大学の卒業論文のテーマを決める際、原爆投下時に現在の広島平和記念公園付近で建物疎開作業を行っていた学徒について取り上げることにしました。中でも、市女は市内で最も多くの犠牲者が出ている学校であるため、市女の学徒動員について調べることで、平和記念公園付近で亡くなった多くの犠牲者のことを継承していく手助けになるのではないかと考えました。

そこで、市女の学徒動員について実態分析を行い、女子学徒動員への対応がどのように変化したのかを市女の動員日誌（蟹屋工場と西部被服工場の2冊）、手記（流燈3冊）、市女23期の加藤八千代さんの個別具体的な経験から分析することを一つの課題としました。

2つ目の課題は、戦後の語りを論じることです。これ

は、広島 of 学徒動員を対象にするに当たり、原爆経験という被爆地特有の語りを見過ごすことはできないと考えたためです。

(資料分析を通して明らかにしたこと)

資料分析を通して明らかになったことは、大きく分けて3つあります。

1つ目は、戦局の悪化に伴い動員体制は厳しいものとなり、政府による女性保護は軽視されていくようになっていった一方で、学校という組織の中では、学徒は先生によって守られ続けていたことです。これは、当時の市女の先生が記していた動員日誌の記述、そして、生き残った学徒が戦後の語りの中で述べていたことから分かりました。

2つ目は、学徒動員と原爆経験をした学徒にとって、原爆経験の方がより戦後に大きく影響を与えているということです。これは、手記のタイトルや内容から指摘でき、戦後の市女同窓会の活動や現在も舟入高校とつながりのある千田保育園の設立などに影響したと考えられます。一方で、学徒動員に関する戦後の影響に関する記述は少なく、原爆による影響が多く書かれていることが被爆地広島における手記の特徴だともいえます。

3つ目は、個別具体的な経験によって、戦後の語りには差異が見られるということです。動員先や亡くなった者との関係性による違いによって語りに違いが見られ、被爆地広島 of 女子学徒の経験といっても、その個々の経験によって与えられた影響には差異があることが分かりました。特に、建物疎開作業に動員され

た1、2年生の同級生は、生き残った申し訳なさを友人だけでなく遺族に対しても持っていたことが分かり、経験や戦後の語りを市女の生徒だからと一括りに捉えることはできないことが指摘できます。

以上のように、本稿では3つの史料を用いて、女子学徒の動員実態を分析した上で、女子学徒の個別具体的な経験の違いによる戦後の語りの差異を明らかにしました。

(最後に～卒業論文を通じて～)

この度、市女の学徒動員について研究したことで、舟入高校にある学徒動員日誌の存在を知ることができ、また、加藤さんにもお会いし貴重な証言をお聞きすることができました。

加藤さんの証言の中で何度も出た言葉は、感謝の言葉でした。それは、千田保育園と慰霊碑が維持され、現在も慰霊碑には花が供えられていることに対する言葉です。献花を行うことは小さな活動と思うかもしれませんが、戦時を生き抜いた被爆者の方にとっては、それは決して小さな活動ではないことに加藤さんに教えていただきました。

近い将来の子どもたちは、被爆者の方から直接被爆証言を聞くことはできなくなります。だからこそ、いま生きている被爆者の方の話聞き、被爆者のために私たちができることは何かを考える必要があるのではないかと思います。市女創立100周年の節目に当たり、私たち1人ひとりができる継承活動について考え、行動する年になることを願っています。

うれしくてたまらなく入学しましたね

ランドセル思い次代へ

被爆死の市女生前岡さん親族

広島市立第一高等女学校（市女、現舟入高）1年生で被爆死した前岡茂子さん。当時（12）が幼い頃に使っていたランドセルが残されていた。母清子さん（同41）が、骨も見つからなかった娘の遺品として大切に保管していた。「思いを受け継いであげたい」。

清子さんの孫の妻、由紀代さん（67）は6日、市女の慰霊碑前に花を手向け、原爆が引き裂いた母子の記憶の継承を誓った。小さな黒いランドセルの革はあちこち傷み、地の茶色がのぞく。茂子さんの小学校入学時に買った品とみられる。清子さんが被爆20

年後、亡き娘に宛てた手紙も添えられていた。「セーラー服、ランドセル、うれしくてうれしくてたまらなく入学しましたね」「母は思いきり泣く」

1945年8月6日、市女1、2年生は現在の平和記念公園（中区）南側一帯

の建物疎開作業に動員された。米軍が投じた原爆で、作業に出ている541人は全滅した。清子さんも猿猴橋町（現南区）の自宅で被爆。助けられたが重傷で動けず、夫の喜三さんが娘を捜したが、遺骨も見つけれなかった。

「親と子の死の対面さえも許してはくれませんでした」「生ある限り、あの子に詫言、詫言、詫言、詫言」。清子さんは遺族会の手記集「流燈（57年）」にそう寄せた。3人にわたる手記には、娘を救えなかつた後悔と悲憤があふれる。

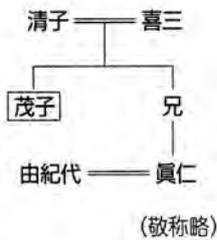
由紀代さんは82年、清子さんの孫眞仁さんと結婚。娘3人に恵まれた。義理の祖母の清子さんはずっと罪の意識を抱えているように見えた、と振り返る。娘に十分食べさせてやれなかつた、いつも眞仁さんやひ孫たちのおなかを満たそうとした。

清子さんが90年に亡くなった後、眞仁さんが慰霊祭に参列し続けたが、昨年12月に72歳で急逝した。由紀代さんは「残された者の役割」と、今年から自分が参列すると決めた。

遺品は経年による傷みが目立つため、原爆資料館（中区）への寄贈を考えている。「残していけば子孫にも茂子さんのことを伝えられる。祖母にとってもうれしいことでしょう」。由紀代さんは言葉を詰まらせ、慰霊碑後ろの銘板に刻まれた茂子さんの名をそつとなでた。（明知 隼一）



前岡茂子さん



①「こんな子が生きていたんだと知ってほしい」。銘板に刻まれた茂子さんの名に触れる由紀代さん
②茂子さんが幼い頃に使っていたランドセルや靴。「前岡茂子遺品」と記した箱に、母清子さんの手紙や文房具などを一緒にしまわれていた

被爆建物劇で考えて



舟入高演劇部が原爆ドームの保存運動をテーマに上演した劇の一場面
(撮影・山田太一)

1969年から原爆劇の上演を毎年続ける舟入高(広島市中区)演劇部が被爆76年の今年、「自分たちができる平和活動」をテーマにした劇に取り組んでいる。原爆ドームの保存運動を通じて被爆建物の保存活用を考える創作劇を上演。秋には次作の発表を控えている。

(桑島美帆)

舟入高生が上演 保存運動取材 同世代に訴え

「変わる、変わらん、じやなくて変えるんよ! 原爆ドームも被服支廠だつて、今そうやって残つとるんよ」。7月中旬、2、3年生約640人を前に部員12人が「パス・トゥ・ザ・フューチャー」を上演した。現代の女子高生が64年にタイムスリップし、取り壊しの危機にあった原爆ドームが市民の手で保存へと動いていく過程を描

く。

脚本担当の3年高橋遙香さん(17)が、保存運動の発端になった椿山ヒロ子さん(1944〜60年)に関する記事を読んだのがきっかけだった。昨年1月から資料を集め、被爆者や保存運動の関係者から聞き取りを重ねた。旧陸軍被服支廠の保存活用問題を報じるニュースも挿入し、今ある問題として捉えてもらおう、との願いを込めた。

47年創部の演劇部が原爆劇に力を入れてきた背景には、前身の市立第一高等女学校で676人もの生徒と教師が原爆の犠牲になった重い歴史がある。一方、時代とともに作風は変化している。従来は顧問が書いていた脚本を2年前から生徒が創作し、題材もより現代に視点を置くようになった。「高校生に伝えるには高校生の目線が必要」と顧問の小山耕平教諭(28)は話す。

現在、10月末の演劇大会に向けて「核兵器廃絶へ向

けてできること」を題材に脚本を練っている。部長の2年宇多村侑香さん(16)は「今を生きる私たちが平和の大切さを考える劇にした」と意気込んでいる。

2021年8月6日 中国新聞朝刊

FOB（舟入OB交流会）に参加しませんか？

舟入53期 宮尾 俊行

FOB（舟入OB交流会）は、舟入高等学校を卒業した同窓生が集い、世代の枠を超えて交流する場です。発足は2008年2月で今年14年目を迎えます。

通常の年であれば、2月、5月、8月、11月の年に4回開催し、第3火曜日の19時から行っています。参加者の年齢層は30代から60代と広く様々で、およそ30～40名が参加されます。

企業PRやお知らせ等も行われますが、世間話に花を咲かせることも多々あります。どのような会話をしているのかというと、「何部だった？」や「何の仕事をしているの？」など学生時代の思い出話だったり、ビジネスチャンスに繋がる話だったり、時には「結婚は？彼女はいるの？いないなら紹介するよ？」と色々な出会いの場にもなるかもしれません。

参加者はみなさん舟入高等学校の卒業生ですので、共有できる話も多く、とても話しやすく、参加者に知り合いがいなくても安心して参加できます。

昨年、今年はコロナ禍で例年通りの開催はできていませんが、開催することが可能な時期には安全面を考慮しながら開催しますので、一度参加してみてください。お待ちしております。

- ・開催予定日 年4回（2月・5月・7月・11月の第3もしくは第4火曜日19時から）
- ・参加資格 広島市立舟入高等学校卒
- ・申込み・お問合せ FOB事務局 杉本 里栄（舟入46期）まで
f-fob@ninus.ocn.ne.jp メールにてお問合せください



参加資格は「舟入高卒」ただこれだけです



企業PR



最後は一丁締め

広島市高等女学校・ 広島市立舟入高等学校同窓会 規約

第1章 総 則

- 第1条 本会は広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会と称する。(略称は舟入・市女同窓会とする。)
- 第2条 本会は会員相互の親睦、社会貢献を図り、母校の発展向上に寄与することを目的とする。
- 第3条 本会の事務局は、〒730-0847 広島市中区舟入南1-4-4 広島市立舟入高等学校内に置く。
- 第4条 会員が多数存在する地域又は多数勤務する職域に代表委員会の承認を得て、本会の支部を置くことができる。

第2章 会員及び客員

- 第5条 本会は下記会員及び客員をもって組織する。
- 1 正会員 広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校の卒業生及びその中途退学者で同期代表委員の推薦を経て会長が承認した者
 - 2 特別会員 母校現職員
 - 3 客員 母校旧職員

第3章 事 業

- 第6条 本会は下記の事業を行う。
- 1 会員の名簿の管理及び会報の発行
 - 2 会員相互の親睦、社会貢献を図るための事業
 - 3 母校の発展向上に寄与する事業
 - 4 その他本会の目的を果たすために必要な事業

第4章 役 員

- 第7条 本会に下記の役員を置く。選出方法は下記のとおりとする。
- 1 名誉会長 会長が推薦し代表委員会で承認を受ける。
 - 2 会 長 1名 正会員の公選とする。
 - 3 副会長 市女1名、舟入3名を正会員より選出する。
 - 4 理 事 30名を限度とし、会長が推薦し、代表委員会で承認する。理事は原則として代表委員を兼務できない。
 - 5 常任理事 若干名 必要に応じて理事の中から会長が推薦し、代表委員会で承認される。
 - 6 代表委員 副代表委員 各期各1名を各年度正会員より互選する。
 - 7 会計監査 2名 正会員より選出する。
 - 8 会 計 理事より互選する。
 - 9 顧 問 若干名 正会員の中から会長が推薦し、代表委員会で承認を受ける。
- 第8条 役員は下記の任務を下記のとおりとする。
- 1 名誉会長 事業の企画執行に当たり経験を具申する。
 - 2 会 長 本会を代表し、会務を統括する。
 - 3 副会長 会長を補佐し、会長に事故ある時はその任務を代行する。
 - 4 理 事 理事会を構成し、代表委員会の決議した範囲内で本会の事業の企画及びその執行にあたる。
 - 5 代表委員 代表委員会を構成し、予算、決算、役員を選出及び会務全般について審議する。
 - 6 会計監査 本会会計の監査にあたる。
 - 7 会 計 本会の会計を担当する。
 - 8 顧 問 会長の諮問に応じ、会務に関して意見を述べる。
- 第9条 役員は1年とし、再任を妨げない。期間は就任の時から次の総会までとする。

第5章 機 関

- 第10条 本会に下記の期間を置く。
- 1 総 会 正会員をもって構成し、毎年1回会長がこれを招集し、規約の改正、事業予算及び決算の承認、役員選出及び承認を付議する。総会を招集することが困難な場合には、代表委員会をもってこれに代えることができる。
 - 2 執行部会 会長、副会長及び顧問会代表と事業執行において必要と認めるものをもって構成し、事業企画を理事会に提案する。
 - 3 理 事 会 会長、副会長及び理事をもって構成し、本会の事業の計画及びその執行にあたる。議長は会長をもってあてる。
 - 4 部 会 理事会には、慰霊部会、総会・広報部会、総務部会を置き、事業の執行を円滑にする。
 - 5 代表委員会 予算、決算、役員を選出及び会務全般について審議する。
 - 6 顧 問 会 会長、副会長、事務局長、顧問をもって構成し会務に対し意見を具申する。
 - 7 本条1～6に定める機関による議決事項は、出席者の多数決により決定する。

第6章 会 計

- 第11条 正会員は、卒業10年目から会費として毎年1口2,000円以上を同窓会会費として納入するものとし、会費は代表委員会の決議により変更できる。但し、市女会員の会費の徴収は行わない。
- 第12条 新卒業生は、入会と同時に入会金1,000円及び入会後9年分の会費として9,000円を納入しなければならない。
- 第13条 本会運営に関する経費は次のものをもってあてる。
- 第14条 1 入会金 2 年会費 3 寄付金 4 その他
会計年度は毎年7月1日から翌年6月30日までとする。

附 則

- 本契約は昭和53年8月13日合併によりこれを施行する。
- 昭和55年8月16日一部改正
昭和57年8月21日一部改正
平成6年8月20日一部改正
平成16年8月21日一部改正 (第14条 会計年度)
平成19年8月18日一部改正 (第12条 平成22年3月卒業生より施行)
平成22年3月29日一部改正 (第10条 執行部会、顧問会新設)
平成27年7月13日一部改正 (第6条 字句削除 第7条 第8条 名誉会長追加)
平成28年12月7日一部改正 (第7条 第8条の名誉会長を1に繰り上げ以下を繰り下げとする)
平成31年3月18日一部改正 (第7条 3副会長選出 若干名を、市女1名、舟入3名に、変更 第7条5 第10条4を追加し、以下を繰り下げとする。)
令和2年5月1日一部改正 (第11条 但し、市女会員の会費の徴収は行わない。を追加)
令和3年10月15日一部改正 (第7条7 会計監査 2名 正会員より選出する。)
- 第11条 正会員は、会費として毎年一口(1,000円)以上を正会員は卒業後10年目から毎年1口(2,000円)以上、とする(第12条、入会後、10年目からは、毎年1口(1,000円)以上を同窓会会費として納入する、を削除)

広島市立第一高等女学校職員生徒原爆死没者 慰霊式典実施細則

- 広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会規約第6条4に規定する、その他本会の目的を果たすために必要な事業として広島市立第一高等女学校職員生徒原爆死没者慰霊式典を行いその実施に関して、下記のとおり定める。
- 第1条 毎年8月6日午前10時より、広島市中区中島町平和大橋西詰、市女慰霊碑前に於いて行う。
- 第2条 慰霊部会及び広島市立舟入高校卒業37年目の期が担当する。

役員運営細則

- 広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会規約第7条3に規定する副会長に関して、下記の通り定める。
- 第1条 副会長の選出方法及び任務は以下のとおりとする。
- 1 選出方法は、市女は正会員の公選とし、舟入は卒業36年目、37年目、38年目の期の代表者とする。
 - 2 任務は、市女副会長は市女総括、舟入副会長は卒業36年目は総会・広報部会長、37年目は慰霊部会長、38年目は総務部会長となり、原則として理事、代表委員を兼務できない。
 - 3 任期は舟入副会長は3年とし、市女副会長は特に設けない。

広島市高等女学校・ 広島市立舟入高等学校同窓会総会実施細則

- 広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会規約第10条1に規定する広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会総会の実施に関して、下記のとおり定める。
- 第1条 毎年8月に行う。
- 第2条 総会・広報部の指導助言のもと、広島市立舟入高校卒業18年目と19年目の期が幹事となる。

機関運営細則

- 広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会規約第10条4に規定する部会に関して、下記のとおり定める。
- 第1条 理事はいずれかの部会に所属し、下記の事業を行う。
- 1 総会・広報部会は、総会当番幹事支援事業、舟入祭等母校支援事業、広報誌「あかしや」制作支援事業を行う。
 - 2 慰霊部会は、慰霊式典の実施事業、慰霊碑維持管理事業、慰霊の記「証」制作事業、その他慰霊に関する事業を行う。
 - 3 総務部会は、会費徴収事業、代表委員活性化事業、OB講演会開催事業、ホームページ作成事業、名簿整理事業を行う。

事務局運営細則

- 広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会規約第3条に規定する事務局の運営に関して、下記のとおり定める。

同窓会活動

- 第1条 事務局に事務局長（1名）、事務局員（若干名）を置くことができる。
- 第2条 事務局長、事務局員の選出方法は下記のとおりとする。
- 1 事務局長 正会員の中から会長が委嘱する。
 - 2 事務局員 事務局長が推薦し、会長が委嘱する。
- 第3条 事務局長、事務局員の任務は下記のとおりとする。
- 1 事務局長 会長の指示により、本会の運営に必要な総務を担当する。
 - 2 事務局員 事務局長を補佐し、事務局員に事故あるときはその任務を代行する。
- 第4条 事務局長及び事務局員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 第5条 事務局長、事務局員の報酬は作業に応じ交通費を含め会長が決定し理事会の議を経る。

特殊作業運営細則

- 第1条 会計担当者の報酬は、作業内容交通費を含め会長が事務局長と協議決定し理事会の議を経る。
- 第2条 会員ファイルメーカー変更作業及びホームページ変更作業担当者の報酬は作業内容及び交通費を含め会長が事務局長と協議決定し理事会の議を経る。

助成金運営細則

- 第1条 同期会の活動を活性化するため次の要件を満たした期に助成金を支給する。
- 第2条 同窓会総会の当番幹事の活動を円滑にするため、当番幹事になる前年もしくはそれまでの年に申請があれば、同期会の立ち上げ奨励費用として1回限り10万円を助成する。
- 第3条 舟入同期会において、申請があれば金3万円を助成する。（複数回可）
- 1 但し、申請までに継続的に3年以上同窓会に3万円以上同窓会会費を納入している期に限る。
 - 2 助成金を受けた年より5年以上経過しなければ次の助成金を受けることは出来ないものとする。
- 第4条 支部総会において開催に当たり申請があれば金3万円を助成する。

- 第5条 前第2条、第3条の助成金を受けようとする期は、代表委員が助成金交付申請書を同期会開催予定日の1か月以上前に舟入・市女同窓会会長に提出しなければならない。
- 第6条 交付は理事会の議を経るものとする。
- 第7条 本細則の改廃は、舟入・市女同窓会理事会を経て舟入・市女同窓会代表委員会の承認を得なければならない。

附則

本細則は、舟入・市女同窓会代表委員会の承認のあった日から施行する。平成17年4月22日施行、尚これまでの助成金に関する同様な細則は廃止する。

平成24年2月24日一部改正（支部助成金第4条を挿入）

平成27年7月13日一部改正（事務局運営細則、特殊作業運営細則）

平成27年10月19日一部改正（事務局運営細則第5条、特殊作業運営細則1、2条理事会の議を追加）

平成28年10月7日一部改正（助成金運営細則第4条、2万円を3万円に改正）

平成31年3月18日一部改正（広島市立第一高等女学校職員生徒原爆死没者慰霊式典実施細則、役員運営細則、広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会総会実施細則、機関運営細則を追加。助成金運営細則第5条 市女の方々への助成金については従来通り市女勘定にて対応する。を削除し以下を繰り上げる）

令和2年5月1日一部改正（機関運営細則第1条の1と2の順番を入れ替える。）

令和2年5月1日一部改正、令和2年8月7日施行（広島市立第一高等女学校職員生徒原爆死没者慰霊式典実施細則の第2条の卒業期を37年目の期に改正、役員運営細則第1条2舟入副会長は卒業36年目は慰霊部部長、37年目は総会・広報部部長、を 舟入副会長は卒業36年目は総会・広報部部長、37年目は慰霊部部長、に改正）

令和3年10月15日一部改正（広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会総会実施細則の第2条の広島市立舟入高校卒業18年目の期が幹事となる。を 広島市立舟入高校卒業18年目と19年目の期が幹事となる。に改正）

2021年度(令和3年度) 広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会(略称 舟入・市女同窓会)組織図

運営期間(2021年8月28日～2022年8月総会開催日前日) 総会から次の総会前日まで



理事の役割: 事業の執行・実施
全理事で対応が基本

2020年度(令和2年度) 事業実施・関連参加・会議開催内容状況(2021/8.7～2022/8.20)

開催日	事業内容	実施内容
8月28日	第43回総会開催	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止(会誌「あかしや」は規模を縮小して発行)
8月	第1回理事会 (書面決議)	4月13日の執行部会の理事会書面決議 総務部:新役員承認(組織図) 承認 規約改正 承認 総会・広報部:第43回同窓会総会の中止 承認 アカシヤの発行 反対1名 慰霊部:第44回慰霊式典の縮小実施 承認 反対2名 執行部提案が書面決議により承認 代表委員会に書面提案
9月	第1回代表委員会 (書面決議)	5月1日の理事会の書面決議の審議 議決事項をすべて承認し理事会の書面決議を代表委員会の書面決議とする。
10月	代表委員・理事・顧問に報告(文書)	
8月21日	第1回 拡大執行部会	於:舟入高校ミーティングルーム 19:00～20:10 1、市本新会長 小松新副会長 住田新事務局長挨拶 2、各部より 総務部:会費確保の具体的手立て 総会・広報部:来年度「総会」は2021年8月21日(土)16:00より ANA CROWNE PLAZAにて実施 幹事は舟入54期と舟入55期が担当(「総会」と「あかしや」は分けて担当) 今後は2期での担当を検討する 慰霊部:「慰霊献花会」の反省 生徒との関わり、被爆80周年に向けた「継承」の課題 事務局:今後の理事会、代表委員会等の日程
9月15日	舟入高校体育祭	新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止
9月18日	第1回総務部会	於:舟入高校ミーティングルーム 19:00～20:00 1、市原総務部長挨拶 2、会費確保の手段について 第1案 卒業後10年目以降の会員の会費を現行の1,000円から2,000円に増額する 第2案 期納入の会費を30,000円から50,000円に増額する 第3案 80歳を迎える会員には永年会員として10,000円を納入していただく 原案 第1案と第2案で進め、第3案は継続審議とする。
9月18日	第1回理事会 (書面決議)	1、総務部関係 会費確保の手段について 第1案 卒業後10年目以降の会員の会費を現行の1,000円から2,000円に増額する 第2案 期納入の会費を30,000円から50,000円に増額する 第3案 80歳を迎える会員には、永年会員として10,000円を納入していただき、総会への出席は全員招待とする 原案 第1案と第2案で進め、第3案は継続審議とする。 2、総会・広報部会 総会担当幹事期について 総会開催をスムーズにするために、担当期と次期担当期の2期で担当する 3、慰霊部会 慰霊式典について 2021年より慰霊式典は二葉会との共催とする
10月3日	千田保育園運動会	於:千田保育園隣接公園 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、来賓を招かず分散開催(0・1歳は参加せず)された
10月25日	第1回代表委員会 (書面決議)	1、総務部関係 会費確保の手段について 第1案 卒業後10年目以降の会員の会費を現行の1,000円から2,000円に増額する 第2案 期納入の会費を30,000円から50,000円に増額する 第3案 80歳を迎える会員には、永年会員として10,000円を納入していただき、総会への出席は全員招待とする 原案 第1案と第2案で進め、第3案は継続審議とする。 2、総会・広報部会 総会担当幹事期について 総会開催をスムーズにするために、担当期と次期担当期の2期で担当する 3、慰霊部会 慰霊式典について 2021年より慰霊式典は二葉会との共催とする
10月30日	第2回 拡大執行部会	於:舟入高校ミーティングルーム 19:00～20:30 1、市本会長挨拶 2、事務局より 3、各部より 総務部:会費確保の手段として、個人年会費を現行の1,000円から2,000円以上に増額することを、2021年度より実施する 総会・広報部:来年度の「総会」は、コロナ禍の状況を見つつ、実施する方向で準備する。(開催日時・会場は未定) 幹事は2020年度の担当予定であった舟入54期と次期担当の舟入55期が担当する 今後は2期での担当を検討する 広報誌「あかしや」は発行を継続する。 慰霊部:今年度の「慰霊献花会」の評価と、来年以降の慰霊式典は二葉会との共催とする 慰霊式典の形式はコロナ禍の状況を見つつ検討する 「継承」を念頭にし、現役生徒の慰霊式典への関わり方を検討する
11月27日	第2回理事会 (書面決議)	1、総務部関係 会費確保の手段について 卒業後10年目以降の会員の会費を現行の1,000円から2,000円に増額する 2、総会・広報部会 総会の開催・会誌「あかしや」の発行について 2021年度の総会は、コロナ禍の状況を見つつ、実施する方向で準備する(開催日時・会場は未定) 会誌「あかしや」は発行を継続する 3、慰霊部会 慰霊式典について 2021年より慰霊式典は二葉会との共催とし、式の形式はコロナ禍の状況を見つつ検討する

開催日	事業内容	実施内容
1月29日	第1回慰霊部会	於:舟入高校ミーティングルーム 17:30～19:00 1、2020年度決算 ①[証]再販 ②2020年度慰霊式典決算 2、2021年度の慰霊式典について コロナ禍での実施を検討 課題:現役生徒の関わり方
2月26日	第3回 拡大執行部会	於:舟入高校ミーティングルーム 19:00～20:30 1、市本会長挨拶 2、事務局より 3、各部より 総務部:会費確保の手段として、個人年会費を現行の1,000円から2,000円以上に増額することを、2021年度より実施する(前回審議・決定済み) 総会・広報部:来年度の「総会」は、コロナ禍の状況を見つつ、実施する方向で準備する。(開催する場合のために、2021年8月28日17:30～ ANA CROWNE PLAZAを仮押さえ済み) 幹事は2020年度の担当予定であった舟入54期と次期担当の舟入55期のうち、54期が総会を主に担当し、55期はそれを補助する 広報誌「あかしや」の発行を継続し、55期が担当する。 慰霊部:今年度の「慰霊献花会」の評価と、来年以降の慰霊式典は二葉会との共催とする 慰霊式典の形式はコロナ禍の状況を見つつ検討する 「継承」を念頭にし、現役生徒の慰霊式典への関わり方を検討する(継続審議)
2月27日	72期卒業生 同窓会入会式	於:舟入高校アカシヤホール 13:40～ 1 開式の言葉 2 同窓会長挨拶・活動内容の紹介 3 第72期同窓会委員紹介・代表挨拶 4 諸連絡 5 閉式の言葉 於:舟入高校ミーティングルーム 12:25～ 同窓会入会式事前打ち合わせ会 代表(中村 花楓さん)・副代表(中重 太一君)の決定
3月1日	第72期生卒業式	於:舟入高校アカシヤホール 10:00～ 新型コロナ感染拡大防止のため、卒業生・教職員のみ参列
3月31日	第2回代表委員会 (書面決議)	第1号議案 総務部関係 会費確保の手段について 卒業後10年目以降の会員の会費を現行の1,000円から2,000円に増額する 第2号議案 総会・広報部会 総会の開催・会誌「あかしや」の発行について 2021年度の総会は、コロナ禍の状況を見つつ、実施する方向で準備する(開催日時・会場は未定) 会誌「あかしや」は発行を継続する 第3号議案 慰霊部会 慰霊式典について 2021年より慰霊式典は二葉会との共催とし、式の形式はコロナ禍の状況を見つつ検討する
4月7日	舟入高校入学式	於:舟入高校アカシヤホール 10:00～ 新型コロナ感染拡大防止のため、入学生・教職員のみ参列
4月23日	顧問会	於:国際ホテル会議室 19:00～(予定)は 中止
5月14日	第4回執行部会	於:舟入高校ミーティングルーム 19:00～ 新型コロナウイルスの流行に対応するため、執行部、常任委員、アドバイザー、新役員参加による拡大執行部会とした。 1、会長挨拶 2、各部より 総務部:年会費を2,000円以上とし、規約を改定する。 総会・広報部:本年度予定していた第43回総会の中止の決定。同窓会誌「あかしや」は発行する。 慰霊部:第45回慰霊式典は縮小して、「献花会」として開催する。
5月28日	代表委員・理事・ 顧問に報告(文書)	第2回代表委員会に於ける決議事項 総務部関係:市女会員の会費納入がなくなる中で現行の同窓会活動を維持するために、2021年度から卒業10年目以降の年会費を1口2,000円以上とする 総会・広報部関係:コロナ禍の中で、今年の総会は中止する。会誌「あかしや」は発行を継続し、第51号は55期が担当する。 慰霊部関係:2021年度より、慰霊式典は二葉会との共催とし、今年度も「献花会」として開催する。
6月	東京支部総会	中止
6月19日	舟入祭	コロナ禍の中で校内のみでの開催となり、同窓会としての参加は中止
6月25日	第2回慰霊部会	於:舟入高校ミーティングルーム 17:30～19:00 1、2020年度決算 2、2021年度の慰霊式典について コロナ禍での「献花会」の実施 同窓会会長・舟入高校校長・二葉会理事長の追悼文を掲示 課題:現役生徒の関わり方
7月	関西支部総会	中止
7月12日	会計打合せ	於:ミーティングルーム 榎田会計・豊島アドバイザー・佐伯アドバイザー・住田事務局長 振替口座受払口座 個人会費照合 決算書作成
7月21日	平和教育講演会	於:アカシヤホール 10時50分～12時 第1学年の生徒を対象とした、林 玲子さん(舟入10期)による講演会が開催される。
7月19日	会計監査	於:舟入高校ミーティングルーム 16時30分～ 久笠会計監査を迎え 会計監査
8月	慰霊式典関係	8月5日 前日清掃・準備 8:00～ 8月6日 慰霊式典(本年度は「慰霊献花会」)9:00～11:00
8月28日	舟入・市女同窓会 総会関係	17:30より ANA CROWNE PLAZAにて開催する予定の総会は中止

2020年度会計報告
合計表

(2020年7月1日～2021年6月30日まで)

単位:円

項目	金額
前期繰越額	19,852,394
収入予算	5,500,000
収入決算	6,590,117
支出予算	6,060,000
支出決算	5,770,342
次期繰越額	20,672,169

収入の部

科目	予算	決算額	摘要
1 会費	4,600,000	5,412,591	
年会費舟入	1,600,000	1,763,471	舟入各同期会、個人会費納入
年会費市女	0	60,000	市女各同期会、個人会費納入
新入会員会費	3,000,000	3,589,120	舟入72期生(359名)入会費
2 総会会費	0	0	開催されず
3 会報広告料	800,000	1,136,000	
4 会報製作協力金等	50,000	41,000	あかしや協賛金
5 雑収入	50,000	526	
収入合計	5,500,000	6,590,117	

支出の部

科目	予算	決算額	摘要
1 会議費	300,000	149,731	
総会開催費	0	54,631	チケット印刷代等
会議費	300,000	95,100	執行部等会議費用
2 市女原爆慰霊式典協力金	100,000	0	市女原爆慰霊式典費用(献花会として開催)
3 同窓会活動周知・広報費	1,260,000	1,153,949	
同窓会報製作費	1,200,000	1,122,369	あかしや製作費(19,500部)
ホームページ等運営費	35,000	31,580	同窓会HP・システム管理運営費
舟入祭出展費	25,000	0	開催されず
4 母校・同期会等支援費	1,450,000	1,130,000	
舟入高校クラブ助成費	650,000	650,000	全国大会・中国大会出場経費助成
卒業記念品代	250,000	250,000	卒業生へ記念品贈呈、DVD作成、はがき
舟入高校支援費	150,000	100,000	教職員饗別、体育祭、舟入祭等
OB講演会謝礼金	30,000	0	講師謝礼金(開催されず)
舟入同期会助成金	300,000	100,000	助成金、総会期10万円
支部支援費	70,000	30,000	東京、関西支部総会開催助成金及び出席費用等
5 事務局管理運営費	2,850,000	3,236,662	
事務局管理費	1,000,000	919,152	事務局人件費(アルバイト作業代含む)
事務・機器購入費	400,000	404,246	資料コピー用紙、機器購入及び修理代、事務用品代
通信・運搬費	1,300,000	1,279,487	電話・葉書・会報誌郵送料及び宅配メール代等
諸雑費	150,000	633,777	振込手数料、同窓会室電気代、校歌CD作成費他
6 被爆70周年誌「証」	100,000	100,000	「証」増刷補助(5回目)
支出合計	6,060,000	5,770,342	

次期繰越内訳

現金	20,007	手持ち現金
普通預金	3,050,127	広島銀行本店
定期預金	8,000,000	広島銀行本店
郵便貯金口座	2,883,503	ゆうちょ銀行
振替口座	6,718,532	01390-9-9571
計	20,672,169	

以上の通り会計報告いたします。

監査報告

令和3年7月19日

会計監査

会計

榎田昌子



久保信雄



真所玲子



1 2021年度 事業計画

(2021年8月29日～2022年総会開催日まで)

<p>1 会議運営 (1)総会関係(総会8月、当番幹事55期) (2)代表委員会(10、5、7月の3回) (3)理事会(必要に応じ開催、代表委員会に提案) (4)執行部会(懸案事項発生時即応)</p> <p>2 市女原爆死没者慰霊式典 8月6日(8月5日清掃)</p> <p>3 理事による役割(但し実行は全理事参加) (1)総務部会(不在代表委員対策・講演会・会報送付) (2)総会・広報部会(55期支援、舟入祭等母校支援) (3)慰霊部会(慰霊式典にかかわるすべて)</p>	<p>4 母校・同期会等への支援 (1)卒業記念品支援 (2)舟入高校行事参加(体育祭・舟入祭・入学式・卒業式等) (3)同期会立ち上げ、支部総会、記念同期会開催等助成金 (4)OB講演会開催(年1回) (5)関西・東京支部行事への参加 (6)平和教育への協力(入学時「証」配布等) (7)同窓会周知・広報活動(新会員入会式・あかしや配布)</p>
---	--

II 2021年度 予 算 (会計年度 2021年7月1日～2022年6月30日)

収 入

区 分	前年度決算額	予算額	摘 要
1 会費	5,412,591	4,800,000	
年会費舟入	1,763,471	1,600,000	舟入各同期会、個人会費納入
年会費市女	60,000	0	市女各同期会、個人会費納入
新入会員会費	3,589,120	3,200,000	第73期(320名)生入会費
2 総会	0	1,500,000	300名
3 会報広告料	1,136,000	1,000,000	28,000円 A枠20,000円 B枠12,000円 C枠4,000円
4 会報製作協力金	41,000	50,000	会報誌「あかしや」協力金
5 雑収入	526	1,000	寄付金、預金利息等
収 入 合 計	6,590,117	7,351,000	

支 出

区 分	前年度決算額	予算額	摘 要
1 会議費	149,731	2,980,000	
総会開催費	54,631	2,500,000	会場料等総会開催費用
会議費	95,100	480,000	執行部会、代表委員会、理事会、顧問会、部会開催等費用
2 市女原爆慰霊式典協力金	0	120,000	令和2年8月6日慰霊式典運営費協力金
3 同窓会活動周知・広報費	1,153,949	1,260,000	
同窓会報制作費	1,122,369	1,200,000	あかしや製作費(19、500部)住所判明会員送付分
ホームページ等運営費	31,580	35,000	ホームページ組換え、名簿専用PC組換え修正費用
舟入祭出展費	0	25,000	舟入祭(文化祭)出展ポスター制作費、会場設営費
4 母校・同期会・支部支援	1,130,000	1,450,000	
舟入高校クラブ助成費	650,000	650,000	クラブ活動助成金(中国大会・全国大会出場者)
卒業記念品代	250,000	250,000	舟71期卒業生へ卒業記念品を贈呈
舟入高校支援費	100,000	150,000	舟入祭、体育祭、教職員饗別
OB講演会謝礼金	0	30,000	毎年1回開催
同期会助成金	100,000	300,000	10万円(総会担当期立上げ)、3万円(記念同期会)
支部支援費	30,000	70,000	関西支部、東京支部行事助成・支援費、総会出席費用
5 事務局管理運営費	3,236,662	2,850,000	
事務局管理費	919,152	1,000,000	事務局人件費(局員管理費・会報誌送付アルバイト料)
事務・機器購入費	404,246	400,000	事務用品費、コピー用紙、機器購入料及び修理費
通信運搬費	1,279,487	1,300,000	電話料、封書・会報誌宅配便料金等
諸 雑 費	633,777	150,000	振込み手数料等
6 被爆70周年誌「証」増刷	100,000	100,000	増刷積立金
支 出 合 計	5,770,342	8,760,000	

収 支

区 分	金 額
前期繰越額	19,852,394
収 入	7,351,000
支 出	8,760,000
次期繰越額	18,443,394

広島市高等女学校 校歌

桧山権六 作詞
永井幸次 作曲

一、文の林にわけ入りし
我が学びやの乙女等は

朝な夕なに父母を
しのびまつりて励みなん

二、かたみにまじらう友垣は
皆はらからと睦びあい

只一筋にいそしみて
学びのわざを終へむかな

三、三篠の川の水のごと
清き心を養ひて

濁りにそまらず一向に
誠の道にすすみなむ

四、二葉の山の松のごと
緑の色も常磐なる

操守りて永久に
婦女の鏡とならむかな

舟入高等学校 生徒の歌

原徹 作詞
岡本真一郎 作曲

一、若きいのち
美しき

吾ら仰ぐ
いざゆかん
我がゆくて

集い寄りて
自由の園に

高き理想
いざゆかん
きわまりしらず

二、みどりもえて
アカシヤの

吾ら立ちて
いざゆかん
我がゆくて

のぞみあふる
学び舎のまど

励み進む
いざゆかん
きわまりしらず

三、とこしえに
誇りあり

吾ら母校の
いざゆかん
我がゆくて

栄光かがやく
そびゆる甍

名をば讃う
いざゆかん
きわまりしらず

舟入高等学校 校歌

大原御耶雄 作詞
安部幸明 作曲

一、アカシヤに光あり
世紀の光 若き日よ

清らかに 眉をあげ
たゆみなく われらは
真理にいきよう

ほこりあり 英気あり
そそりたつ われらの校舎

紫の旗 われらの旗

二、アカシヤに望あり

世紀の望 若き日よ
たかぶらず 手をとって
ひとすじに われらは
理想にいきよう

歓喜あり 平和あり
そそりたつ われらの校舎
紫の旗 われらの旗

住所や連絡先が変更した時は、
変更届を同窓会事務局までご連絡をお願いします。

FAX

期	名 前
	ふりがな

変更前	住 所	〒
変更後	住 所	〒
	電話番号	
	E-mail	

連 絡 先

舟入・市女同窓会事務局 TEL/FAX:082-532-9633

E-mail:funairi-ichijo-dosokai@diamond.broba.cc

毎週月・金(祝日を除く)の13:00~17:00まで事務局員がいます。

感謝

新型コロナウイルスの影響がまだまだ続く中、広告にご協力を頂きました企業の皆様、寄稿頂いた市女・舟入OBの皆様へこの場をお借りして御礼申し上げます。

そして、あかしや発刊に際し例年のように集まることもできず、オンラインでのやり取りのみでしたが本業が忙しい中でも様々な面で協力を頂いた同期有志の方々、本当にありがとうございました。

今年をあかしやのテーマは「有り難い(ありがたい)」です。新型コロナウイルスにより様々な影響が出る中で、当たり前だと思っていたことに対してもありがたいことだと感謝をするようになりました。今回のあかしや発刊に際しても多くの方々にご協力を頂き感謝してもしきれません。来年度をあかしや担当は一学年下の舟入高校卒業生が担当することとなりますが、引き続きのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

一刻も早い新型コロナの終息を願って。

当番幹事代表舟入55期 上野充大

舟入・市女同窓会会報 vol.51

あかしや 2021

2021年(令和3年11月19日)

■発行/広島市高等女学校・広島市立舟入高等学校同窓会
〒730-0847 広島市中区舟入南1丁目4-4 舟入高校内 TEL 082-532-9633
■製作・印刷/株式会社 インパルスコーポレーション
〒731-0141 広島市安佐南区相田1丁目16-27 TEL 082-878-6000
■表紙デザイン/広島市立舟入高等学校3年 芦田 遥

AKASHIYA



舟入・市女同窓会ホームページ
www.funairi-ichijo.org